

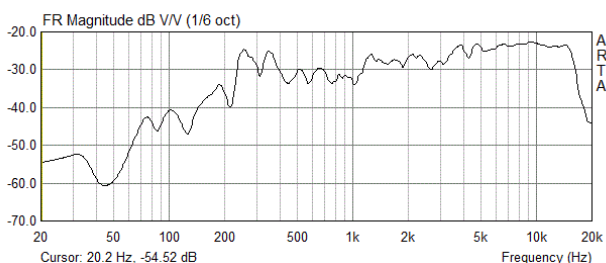
# <S-050>の紹介

スピーカー再生技術研究会  
15.09.21 カノン5D

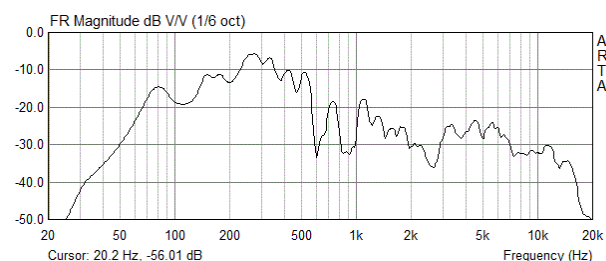
平面振動板ユニットを用いたスピーカーです。

ナチュラルで色づけが殆どない音で、長時間聴いても疲れがないのが特徴です。

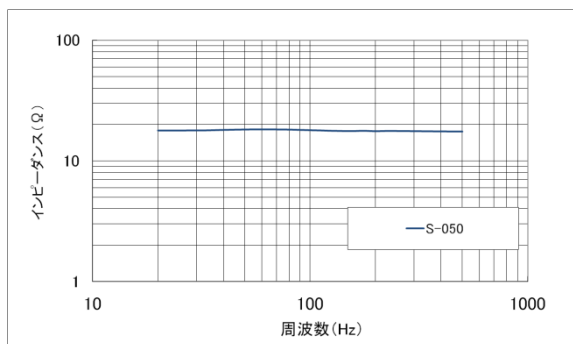
搭載ユニット : Right-EAR製「C0607」  
エンクロージャ : バックロードホーン型



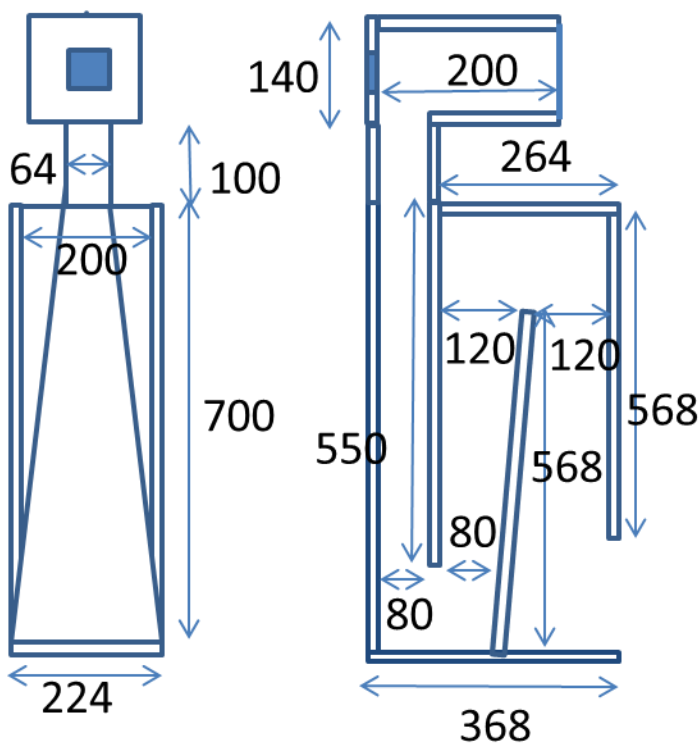
周波数特性(軸上1m)



周波数特性(ダクト開口部)



インピーダンス特性



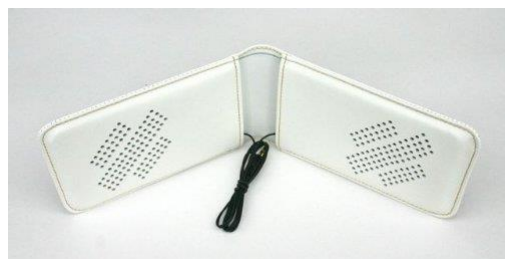
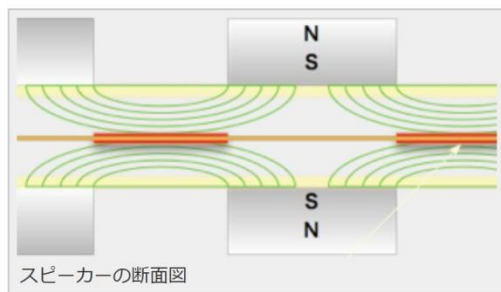
# ・スピーカーユニットの特徴

## Right-EAR製「C0607」

音楽信号が通る電線が配されたフィルムを中心として、その前後に磁石を配した構造です(右図)。

こうした独自の構造により、振動板全面が駆動点となり、分割振動が起こりにくいことから、低歪な再生音を実現しています。

本方式は、1988年に「プロトロ」により開発されました。2007年に設立の「Right-EAR」が、このライセンスを購入し、製品化に至っています。Right-EARは、ユニット単体での販売のほか、ピロースピーカーやブックスピーカーなどの完成品も販売しています。



「Right-EAR」webページ  
<http://right-ear.com/new/raitoia/Home.html>

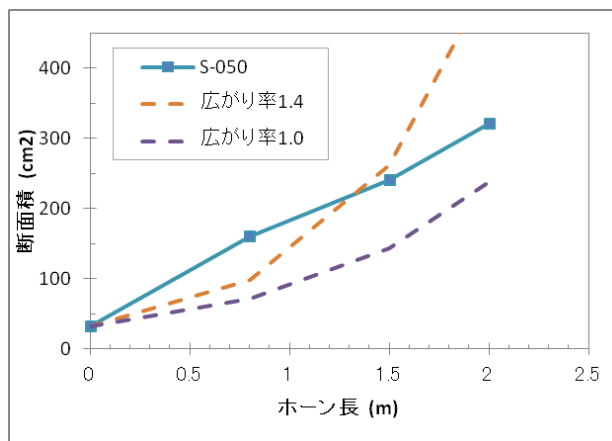
「プロトロ」webページ  
<http://www.protro.com/PROTRO/homu.html>

# ・エンクロージャの特徴

S-050は、一般的なバックロードホーンと比較して、異なった広がり方をもつホーンを搭載しています。

一般的なバックロードホーンは、「エクスポネンシャル曲線」に基づくホーン形状(点線)としますが、S-050では重低音に効くホーン後半部での広がりが穏やか(右図、実線)なホーン形状とすることで、重低域まで効率的な増幅を実現しました。

さらに、「C0607」の素直な特性を阻害しないよう、定在波の発生を抑制できる空気室(ヘッド部)形状を採用しています。



詳細は、ブログ「カノン5Dの自作オーディオ」をご参照ください。  
<http://blog.goo.ne.jp/4g1g4g0>